



DOCOMO TEAM DANDELION RACING

Team Release

第2レース レポート

2017/5/28 Rd-2 岡山国際サーキット

天候：晴れ 気温：27°C 出走台数：19台

観客数：27日(土)7,100人 28日(日)11,000人 合計18,100人

2レース制で開催された全日本スーパーフォーミュラ選手権第2戦岡山国際サーキット。日曜日のRace2は、ノックダウン第1&第2予選とタイヤ交換義務付け51周の決勝で開催された。

午前中に行われた予選。第1予選では11位から19位が、第2予選で上位10台のグリッドが確定する。

ノックアウト第1予選、まず中古タイヤでコースコンディションとアタック確認を行った両ドライバーは、残り7分でニュータイヤを装着してコースイン、タイヤをウォームアップさせてアタックを開始したその時、残り時間1分というところでスピン車両が発生。赤旗中断となってしまう。その後、セッション残り時間が2分30秒に延長されて再開。再びコースインし、アタック1発勝負となる。伊沢選手は8位で第2予選に進んだが、野尻選手は第1予選通過の10位に僅か2/1000秒差の11位で予選を終えた。

10分のインターバルを経て迎えた第2予選。わずかにセットアップを修正した伊沢選手は、残り6分でコースイン。フィーリングは良かったもののポールからは0.6秒離され7位で予選を終えた。

Race2スタート時の気温は27度。路面温度は40度を超え、午前中の予選とは全く違ったコンディション。しかし無給油でも走り切れる距離で、タイヤの摩耗も50周走り切っても問題ないというエンジニアの読みから、スタート次第で多くのマシンが1~2周目にピットインすることが予想された。

スタートで2ポジション順位を上げた伊沢選手は2周目にピットイン。続く3周目に野尻選手もタイヤ交換を済ませ、コース上にはピットインしていないグループ、ピットインを終えてタイヤ交換義務を果たしたグループの2つの隊列ができ、5周目時点では伊沢選手はタイヤ交換済集団の3番手、野尻選手は6番手となる。

ここからピットインしていないグループとの見えない戦いが始まり、チームは両ドライバーにペースアップを指示。レース中盤20周目ごろからピットインする車両が増え始め、35周終了時点で伊沢選手5番手、野尻選手11番手。しかし38周目、伊沢選手は2コーナーでクラッシュしレースを終えることに。これによりセーフティカーが導入される。

セーフティカー退去後、野尻選手はポイント圏内を目指し猛プッシュするが届かず、10位でRace2を終えた。



DOCOMO TEAM DANDELION RACING

Team Release

40：野尻 選手 予選 11 位（第1 予選 11 位） 決勝 10 位 HONDA勢 3 位

2 レース制の岡山では、いつも以上に予選で好位置を得ることが重要だったので、コンディションの変化やタイヤの使い方が上手くいきませんでした。

レースでは、第 1 レースと比較すればペースの改善も見られ、良い部分も悪い部分も理解できたと思います。

結果には残りませんでしたが、何かは見つけることが出来たと思います。

この週末の結果を紐解き、次戦に向けてしっかりと準備して、競争力を取り戻します。

41：伊沢選手 予選 7 位（第1 予選 8 位 第2 予選 7 位） 決勝リタイヤ

満足いく状況ではないものの、予選、決勝と、調子を上げてくることが出来ました。

スタートも良く、ピット作業も完璧で、戦略も機能し、5番手以上を目指していましたが、終盤でスピンしてしまい、応援いただいたファンやしっかりと準備してくれたチームに申し訳ない気持ちです。

ポイントを取り損ねたのが残念ですが、ポイント圏内で戦えるパフォーマンスは十分持っているので、富士に向けて更にこの好調を確実なものにしたいです。